

足踏み状態となった中小企業の景況

平成24年1月24日

全国商工会連合会

全国商工会連合会（会長：石澤義文）は24日、平成23年10月－12月期中小企業景況調査（8,000企業対象、11月15日時点調査実施）の結果をとりまとめた。

平成23年10月－12月期の中小企業景況調査によると、全産業ベースのD I（景気動向指数・前年同期比）は売上額がマイナス31.0（前期比0.5ポイント低下）となった。採算（経常利益）はマイナス35.7（同1.3ポイント上昇）、資金繰りはマイナス24.8（同0.7ポイント上昇）だった。平成23年7月－9月期には大きな改善を示した中小企業の景況だが、10月－12月期の主要3D Iの動きはそれぞれ小幅と、足踏み結果となった。

業種別に売上額D I（建設業は完成工事額D I）を見ると、製造業はマイナス18.9（前期比0.6ポイント低下）、建設業はマイナス17.3（同4.5ポイント上昇）、小売業はマイナス42.9（同2.9ポイント低下）、サービス業はマイナス35.2（同1.4ポイント低下）となった。このように、業種別の景況感はまだら模様だ。小売業は1年ぶりに主要3D Iが悪化に転じた。製造業とサービス業のD Iは小動きで、景況は頭打ちの状況となっている。一方、建設業は復興需要などを背景に主要3D Iが2期連続して上昇し、改善傾向にある。建設業の完成工事（売上）D Iと資金繰りD Iの水準は、製造業を上回りほぼ2年ぶりに4業種で一番高い水準に上昇した。

製造業では、主要3D Iがそろって改善・悪化した業種がそれぞれ4業種と明暗が拮抗している。「精密機械器具製造業」や「印刷・同関連業」などで悪化が目立つ一方、「飲料・飼料・たばこ製造業」や「木材・木製品製造業」の改善幅は比較的大きかった。建設業では、ほぼすべての地域でD Iは改善を示したが、とりわけ「東北」では完成工事（請負工事）D Iの水準が3.3と唯一プラスに転じたことをはじめ、3D Iの水準が一番高く、復興需要が大きく寄与していることをうかがわせる。小売業は「家具・建具・じゅう器小売業」の主要3D Iがそろって2ケタのマイナスと大きく落ち込んだ。「飲食料品小売業」でも主要3D Iが悪化した。サービス業では、「運送業」で売上（収入）額D Iと採算（経常利益）D Iが前期比2ケタ上昇と、景況は大きく改善した。逆に、「洗濯・理美容業」は小幅悪化した。

10月－12月期は、円高や海外景気の変調で輸出が伸び悩んだことなどから、製造業の回復にブレーキがかかる一方、政策効果などから建設業では改善が続く結果となった。消費が弱含んでいることを反映して、小売業やサービス業でD Iの水準が低い中で、小売業の3D Iが悪化に転じたことには注意が必要であろう。

（注）D I（景気動向指数）は各調査項目について、各調査項目について増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。連絡先 企業環境整備課 堀内 TEL 03-6268-0085